



熊本地震 支援活動報告

博士課程共同災害看護学専攻 (DNGL)



熊本地震のご被害、心よりお見舞いを申し上げます。

■みゆきの里での活動

活動の背景：熊本地震の発生を知り、情報収集をしながら自分たちに来ることは何かないかと模索する中で、みゆきの里が被災されていることを知る。教員1名と学生1名が4/25～4/27みゆきの里を訪問し、現地の皆様の状況把握とボランティア活動の可能性を検討。

(本学教職員からのお見舞金、緊急必要物品として要望のあった歯ブラシ・歯磨き粉300セットも持参)

活動場所：熊本市南区の地域包括福祉施設である「みゆきの里」各施設

活動期間：2016年5月2日～5月9日



みゆき園外観



多目的室に地域の要介護者を受け入れた

		4月27日	4月28日	4月29日	4月30日	5月1日	5月2日	5月3日	5月4日	5月5日	5月6日	5月7日	5月8日	5月9日	5月10日	5月11日	5月12日
		水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
DNGL 学生	池田裕子 (D3)	4/25～ PM会議						1 1(夜勤)		1							
	小林千絵 (D2)						1 1	1 1	1 1	1(夜勤)	11am-退勤 所巡回		1	1			
	山内万裕美 (D2)								1 1	1(夜勤)	11am-退勤 所巡回		1	1			
	青山都弥子 (D1)	情報収集・支援活動 準備									看護協会災害支援ナース 2-5/5						
	藤井直樹 (D1)								1 1(夜勤)	1							
	住山結香 (D3)																
DNGL 教員	内木美恵	情報収集 PM会議	学生ボラ ンティア派 遣決定							みゆきの里で支援活動(管理分野)							
	田村由美	4/25～ PM会議															
	みゆき病院看護部長と電話連絡・調整、メール等で安全確認・活動状況把握																

博士課程共同災害看護学専攻 3年 池田裕子

私は特別養護老人ホーム「みゆき園」で、高齢者の生活を支える介護士の皆様と生活支援を行いました。震災後には多くの被災要介護者を本施設では受け入れてあります。施設は被災地であり、職員の皆様も当然被災しています。度重なる余震におびえながらも、介護を24時間必要とする利用者の皆様のために働き続けていました。

病院での勤務経験しかなかった私にとって、その業務量や日常生活の質を下げない支援が如何にケアの力を要するかなど、全く知りませんでした。また、施設職員と共に活動をさせて頂く中で、当時のことを思い出し、辛い胸の内を話して下さる方もおりました。体もそうですが、心も非常に疲弊していることがわかりました。

今回、支援をさせて頂き、感じたことは、利用者が震災時にあってもできるだけ平時と同じように安楽に生活が継続できるようにするためにはどうすればよいか、施設全体で考え続けていることです。

5月14日で震災から1か月が経ちます。気を張り詰めて勤務を続けた職員の皆様にも心身ともに疲労が蓄積しています。このように要介護者のために厳しい時期を何とか乗り越えてきた施設はほかに多数あるはずですが。

今後、ニーズがあれば、今回のような通常業務の支援を中長期的にさせて頂きたいと考えています。

博士課程共同災害看護学専攻 2年 小林千絵

私は、地域密着型特別養護老人ホームで、介護職の皆様のお手伝いをさせて頂きました。施設では震災で食器洗浄機が破損し、大量の食器を全て手洗いしています。また、震災時スプリンクラーが作動して水浸しになったカルテや写真等を、一枚一枚乾かす作業が続けられていました。壁にはヒビが入り、スプリンクラーが抜け落ちた天井には穴が空いています。このように、震災の影響が多くある環境下で、職員の皆様は入居者さまにいつも通り過ごしていただくことと全力を尽くしていらっしゃいました。

職員の皆様も被災されています。車中泊を続けながら勤務されている方や、夜勤への恐怖があり現在は昼間のみの勤務にしている方も、と話し下さった方もいらっしゃいました。しかし、入居者さまの事を考えると休むわけにはいかないと皆さんがおっしゃり、同じ思いでおられました。余震の度に職員の方々の表情は強張り、声を上げて立ち竦む方もいらっしゃいました。夜勤をさせて頂いた際、一緒にいてくれて心強い、と何度も声をかけていただき、余震が続く中、少人数で夜勤を続ける不安の強さを感じました。

ご自身も被災されながら、入居者さまの日々の生活を大切に守り続ける職員の方々の心身には、現在も大変なご負担がかかり続けていると思います。長期的な視野で、被災地の皆様にとって必要なこと、自分に出来ることを考えていきたいと思っています。

博士課程共同災害看護学専攻 1年 藤井直樹

博士課程共同災害看護学専攻 2年 山内万裕美

私は、御幸病院の回復期リハビリテーション病棟でボランティアをさせて頂きました。スタッフの皆様は、入浴施設が破損し、清拭に切り替えたから大変なのと言いつつも、個人にあわせ急がすことなく、丁寧にケアを行っていました。地震の影響を受けながらも患者さまと笑顔で接し、笑いを絶やさないスタッフの皆様への対応がとても印象的でした。

支援者として初心者の私は、スタッフの皆様色々な業務を教えていただきながら活動させて頂き、寧ろ自分の存在が負担になっているのではないかと不安になることもありました。しかし、スタッフの皆様からは、些細なことに対しても、「ありがとう」と常に感謝の言葉を戴きました。この経験から私は、その場のルールを理解し、早く場に馴染むことが大切だと感じました。また、誰のための支援なのか忘れることなく、被災地の人々に余計な負担をかけることなく、状況に合わせて必要な支援活動を行うことが大事だと学びました。ありがとうございました。

私は、御幸病院の医療療養病棟においてボランティアを行いました。活動内容としては、病棟における看護業務の支援です。施設の介護士の皆様と行動を共にし、患者さまの清拭や更衣、食事やトイレの介助、体位変換やおむつ交換などを行いました。

一見、病院の建物の被害はさほど大きくなく、職員の皆様も通常通り勤務されており、私には普段の日常のように見えました。しかし、実際医療従事者の方々に被災当時の話を伺うと、生々しい被災経験を話され、忘れることが出来ないと辛い心境も話してくださいました。私は今回の活動で目には見えない被害、被災者である医療従事者の方々の心の傷を目の当たりにし、今後被災者でありながらも患者のために尽力できるをえない医療従事者に対する支援の必要性を感じました。

実は、私にとって今回のボランティアが看護師として初めての経験であり、まだ十分な知識や経験もない状態で、何をどの様に支援すればいいか、被災者の皆様の支援になるかどうかとても不安でした。しかし、病院の温かい雰囲気、医療従事者の方々の優しさに触れることでそういった不安は消え、安心して活動を行うことができました。

今回のボランティアで多くのことを学ばせていただきました。ありがとうございました。

■南阿蘇村 避難所での活動

活動場所：南阿蘇村 避難所

活動期間：2016年5月2日～5月5日

博士課程共同災害看護学専攻 1年 青山都弥子

私は東京都看護協会災害支援ナースとして南阿蘇村にて支援活動を行いました。東京都看護協会からは4名派遣され、避難所には378名の被災された方々と、感染症疑いの方々が5名おられました。

日本赤十字の救護班の方々と地域包括ケアの保健師の方とともに私たちは、避難所の保健衛生や健康管理、車内泊をしている方々の健康チェックを行いました。多くの支援が入っており、組織間の連絡・調整を行なうことが、スムーズな支援を行なうためには必要であり、連携を取っていく大切さを学びました。

まだまだ余震が多く、落ち着かない日々が続く、地震を怖がっている方も多くいらっしゃいました。その中で、自分達は何か出来るのか悩む事も多くありました。まだまだ過酷な生活が続いており、お話を聞かせていただいていると涙ぐむ方もいらっしゃり、感染症への注意とともに、心のケアを行っていく必要があると感じました。今後もどんな支援が必要で、どんな事ができるのか、考えていきたいと思っています。



避難所の入り口



保護室(感染室)のトイレ掃除の様子

■後方支援

みゆきの里でのボランティアについて、私は東京から安全管理と連絡手段のサポートをしました。まず、安全管理については、現地(熊本市)で私たちボランティアが安全に活動できるように、熊本県の一般的な情報(面積、人口、文化、歴史、気候、安全情報等)を調べ、「DNGL安全の手引き」を基に緊急時の連絡体制を確認しました。教員からアドバイスをもちに事前にプリングを実施したことで、私たちの理解が深まりました。次に、連絡手段では、学校のメールシステムやDrop Box、携帯電話のSNSメッセージ、アプリ等を使い分け、主に学校のメールでやり取りをしていました。今回の熊本派遣を振り返り、①入学時に緊急連絡先の確認すること、②必要物品の準備、整理、管理、③コミュニケーションツールの確認が重要だと思います。また、自分たちが被災した時、家族や所属先への緊急連絡先、連絡手段の確認が必要だと思います。このように、日ごろからのこころと身体の事前準備が大切だということを実感しました。そして、後方支援の大切さも実感しました。教員にアドバイスをもちにデブリーフィングを行い、学生同士の体験や思いを共有することで、チームの一員として取り組むことができたことに感謝いたします。

共同災害看護学専攻 3年 住山 結香